

平成25年度事業の実績

Ⅰ 大学改革の実施について

平成25年7月に、将来構想の企画、経営にかかわる企画・立案・チェック機能を担う学長直轄の経営企画局を設置しました。経営企画局を中心に本学の進む方向性、経営目標を含めた中期計画（平成26～26年度）を策定し実施します。平成25年度は経営改革のプレス・メッセージとして、組織編制・職制の改正、職務権限の新設、目標管理制度の制定、予算編成体制の見直しを図りました。

Ⅱ 教育活動について

① 大学の精神の実現：建学の礎であるキリスト教の精神を伝えるために、「清泉講座」「人間学」「キリスト教概論」の授業と、建学の精神への理解を深めるために静修会等の行事を行いました。学部目標である「自分を高め、他者のために考え行動する人間の育成」を目指し、教養教育、専門教育の体系的な連関による実現を図りました。

② 人間学部心理コミュニケーション学科：心理、英語コミュニケーション、現代コミュニケーションの3コースを設置し、徹底した少人数教育、実践・体験を重視した教育、一年次からの体系的なキャリア教育とキャリア支援活動の連携、学習到達度を実感できる評価体制、地域や一般企業において必要とされる社会的スキル及びマネジメント能力の養成を通して、教育目標の達成に努めました。

平成25年度は、創立10周年を契機に新たな10年を見通す将来構想の下、平成26年度新カリキュラムを策定しました。また、記念事業として特別講演会の開催、10史の編纂を行いました。

③ 他大学との連携：豊かな教育機会を提供するために「清泉女子大学姉妹校留学制度」「上智大学学生交流協定」「長野県内大学単位互換制度」「高等教育コンソーシアム信州（県内8大学による遠隔授業）」などを行いました。

④ 短大
① 建学の精神の実現：建学の精神であるキリスト教的価値観を深め、それに基づく学園

生活の実現のために、「人間学」「キリスト教概論」の授業とともに静修会を行いました。5月の静修会では講師の講演を聴き短大生活の意義を深く考え、12月のクリスマス静修会では神父様の講話とともに祈りを捧げる時間を共有し、3月の卒業静修会で2年生は学生生活を振り返り将来に向けて心を準備する機会を持ちました。

② 幼児教育科：保育者養成教育の伝統を継承しつつ、人間性豊かで新しい時代にふさわしい保育者を養成するために、幼児教育、社会福祉、児童文化の3コースを設け、保育士資格、幼稚園教諭二種免許及び児童厚生二級指導員の取得に必要なカリキュラムを設置しています。また、新たに「自然体験指導者」資格認定校となる申請を行いました。コミュニケーション力育成のための課題に取り組みでおり、入学前教育プログラムと言語力育成プログラムを行いました。

③ 国際コミュニケーション科：豊かな国際的視野とコミュニケーション能力を養成できるような学生の興味や進路に合わせて英語・国際交流・地域情報・ビジネスの4コースを設けるカリキュラムを設定しています。清泉版「社会人基礎力である「清泉スピリット5つの力」を育成する特別プログラムを行いました。

Ⅲ 自己評価・FD活動について

④ 大学 外部評価や認証評価での指摘事項の改善に向けたPDCAサイクルの充実を図りました。学生による授業評価、FD研修会、兼任講師との懇談会などを行って教育的効果を検証しました。

⑤ 短大 育英短期大学（高崎市）との相互評価の成果と課題を参考に教育活動を行い、効果を検証しました。学生による授業評価、FD研修会、兼任講師との懇談会を行い、平成26年度に受ける第三者評価に向けて、報告書等作成の準備を開始しました。

Ⅳ 国際交流について

国際交流センターを新設しました。協定校の漢陽女子大学（韓国）、国立高雄第一科技大学（台湾）、チャイロ・ロアサンジャブ言語文明大学（モンゴル）、カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（米国）に学生を派遣し語学研修・

文化研修を行うとともに、協定校の学生を本学に招致し国際交流活動を行いました。

V 学生生活の支援について

学生生活アンケートを行って実態を把握し、改善策の検討及び学生との懇談会を行いました。

① 通学等の支援：学生専用駐車場の整備、最寄駅へスクールバスの朝4便夕方1便運行、JR長野駅からバス通学者の料金一部助成など支援しました。

② 奨学金制度：給付型の「ラファエラ・マリア スカラシップ」（成績優秀者）、「緊急奨学金」（家計急変者、貸与型の保護者会による「泉会奨学金」「親泉会奨学金」など、学生のニーズに合致した奨学金制度の充実を図りました。

③ 学生相談室：臨床心理士の資格をもつ教員2名と非常勤職員1名を相談員として、学生のメンタル面をサポートしました。

④ 自宅外通学者支援：一人暮らしの生活講座、アパート経営者との情報交換会を行い生活面・安全面に関して指導しました。

VI キャリア支援

キャリア系授業やガイダンスなどを通して、学生が自己理解・職業理解を得る機会を設けました。実践的なセミナーや情報収集の場をタイムリーに提供して、就職・進学等を支援しました。

より広い意味での女性のキャリア支援の在り方、若者の早期離職問題や勤労観・職業観の希薄化等を踏まえた総合的なキャリア教育の在り方を改めて見直し、キャリア支援センター未来プロジェクトを実施しました。

VII 教員の研究活動について

『研究紀要』『Humanitas Catholica』の刊行、共同研究の推進、研究成果出版助成などを行いました。教員へのアンケートをもとに、学術情報や助成制度の情報集約・周知する仕組みを再構築しました。特に科学研究費への応募の推進強化を図った結果、応募・採択数が増加しました。

VIII 保護者、地域との連携について

① 保護者等との連携：「泉会（保護者会）総会」及び「就職・進学支援のための保護者懇談会」

の開催、「カレッジ通信」の発行を行いました。卒業生については、愛泉会（OG会）と協働で「ニュース・レター」を発行しました。

② 地域と連携：地域連携センターを中心に、地域に貢献できる人材の育成及び開かれた大学として地域社会の要請に応えることを目標に活動しました。

・ 地域連携活動：地（知）の拠点整備事業に関連し、長野市、千曲市との連携を強化し、また新たに信濃町と包括連携協定を締結し、学生が様々な地域活動に参加しました。

・ 生涯学習活動：公開講座、授業開放講座、出張講座を開催しました。

・ ボランティア活動：長野県内での一般の活動に加え、岩手県での震災ボランティア活動を継続して行い延べ134名の学生が参加しました。

IX 保護者、地域との連携について

・ 県内の高校はもとより、近隣県への広報活動を展開しました。特に新潟県上越地区にラッピングバスを運行させました。また、各種のWEBメディアを活用した広報活動を展開しました。

・ 多様な学生や学院関係者の入学者増を促進するために、社会人、同窓生子女、在学生・卒業生姉妹、清泉女学院短大から大学への編入学生の入学金減免制度を実施しました。

X 施設設備の維持・充実について

・ 学内サイン表示の新設、バリアフリー化工事、兼任講師控室の移設充実などを行いました。

・ 学生の通学面への対応や地域活動への参加を促進するために、マイクロスバスを購入しました。

・ 学務情報システムのバージョンアップ、CALLの更新等ICT基盤の強化を図りました。

・ 図書館では学生や教職員の教育研究支援のために、文献・雑誌記事検索データベース、蔵書検索システムなどを充実させました。また、清泉学院リポジトリに紀要等を掲載しました。

XI 財政

収入については、私立大学等改革総合支援事業（地域特色型）に採択され、大学短大合計16百万円の補助金を獲得しました。支出については、経費の削減を図り効率的な執行に努めました。